

第34回日本緑内障学会 ランチョンセミナー2

低侵襲緑内障手術交流会

～ 眼圧と視機能のベストマッチング～

日時

2023年9月8日(金) 12:20～13:10

会場

第2会場 虎ノ門ヒルズフォーラム メインホール2



座長

稲谷 大先生 (福井大学)

ご略歴

1995年 京都大学医学部卒
1997年 京都大学大学院生
2000年 京都大学助教
2001年 米国バーナム研究所客員研究員
2006年 熊本大学講師
2011年 福井大学医学部眼科教授

講演

1

原発閉塞隅角スペクトラムで望まれる白内障手術
増田 洋一郎先生 (東京慈恵会医科大学)

講演

2

MIGS後の緑内障手術選択
笠原 正行先生 (北里大学)

講演

3

新しいMIGS:
低侵襲濾過手術デバイスの効果と術後惹起乱視
坂田 礼先生 (東京大学)



座長 稲谷 大先生 (福井大学)

近年、緑内障手術の発展は目覚ましく、低侵襲な術式の選択肢が広がりを見せています。低侵襲手術では角膜の歪みといった眼形状の変化も軽減できるため、術式の広がりには視機能維持の観点からも重要な発展だといえます。一方で、最も重要な眼圧下降効果も術式ごとに違いがあることから、眼圧への影響、視機能への影響、患者負担などのバランスを総合的に加味して、患者一人ひとりに適した術式を選択することが、今後益々重要になってくると思います。

そこで、本セミナーでは、最先端の低侵襲緑内障手術の眼圧と視機能への影響を検証し、そのバランスからベストマッチする適応症例を探っていきたいと思います。増田先生には閉塞隅角緑内障の水晶体摘出術、笠原先生にはMIGSおよび追加MIGS、坂田先生にはマイクロシャント濾過手術をテーマにご講演いただきます。本セミナーが皆様の緑内障手術治療の一助となることを心より願っております。

原発閉塞隅角スペクトラムで望まれる白内障手術
増田 洋一郎先生 (東京慈恵会医科大学)

原発閉塞隅角症(primary angle closure: PAC)は、PAC-glaucoma(PACG), Acute-PAC(APAC)へと継時的に移行する可能性を有し、高齢化が進む日本では今後増加することが憂慮される。PAC、PACG、APACのどのステージでも水晶体再建術は有効な治療手段となるが、その手術は浅前房による狭いワーキングスペース、術前散瞳評価が不可能であること、チン小帯脆弱合併例が多いことにより容易ではないことも少なくなく、特にチン小帯脆弱合併例はIOL偏位およびIOL落下の合併リスクが高いため、初回の白内障手術の工夫で可能な限り発症防止に努めるべきである。本講演では、このPACスペクトラムにおける水晶体再建術において望まれる工夫に関し考えてみたい。

ご略歴

1997年 東京慈恵会医科大学 医学部 卒業
1999年 東京慈恵会医科大学 眼科学講座 助手
2006年 米国スタンフォード大学 客員研究員
2012年 東京慈恵会医科大学 眼科学講座 講師
2023年 東京慈恵会医科大学 眼科学講座 准教授

MIGS後の緑内障手術選択
笠原 正行先生 (北里大学)

近年、安全性を重視した緑内障手術として、低侵襲かつ短時間で行うことのできる minimally invasive glaucoma surgery (MIGS) が国内外で広く普及してきている。しかし、眼圧下降効果が乏しい症例や長期経過後に眼圧が再上昇する症例も少なくない。眼圧再上昇例に対する追加手術として、これまでは濾過手術を選択することが多かったが、近年、再度のMIGSの効果が注目されている。その手術効果についてはまだまだ不明な点が多いが、本講演ではMIGS後の緑内障手術選択について、既報および自験データを紹介しながら解説を行いたい。

ご略歴

2006年 北里大学医学部 卒業
2013年 北里大学大学院医療系研究科博士課程修了
2014年 北里大学医学部眼科学 助教
2019年 北里大学医学部眼科学 診療講師
2020年 北里大学医学部眼科学 専任講師

新しいMIGS:低侵襲濾過手術デバイスの効果と術後惹起乱視
坂田 礼先生 (東京大学)

2022年秋よりプリザーブドマイクロシャント(以下、PFM)が上市された(5月現在は一部の施設のみでの使用可能)。PFMは、全長8.5mmのスチレン・インポチレン・スチレントリブブロック重合体(SIBS)製のデバイスで、強膜から前房に向けてチューブを挿入・留置させ、結膜下へ房水流出経路を作製し、眼圧を下降させる。この手術は低侵襲濾過手術の位置づけとして、トラベクトミーと比べて簡便かつ侵襲性が低い術式であり、患者や術者の負担を軽減できると考えられている。このセミナーではPFMの効果(眼圧経過)と術後惹起乱視について、短期的な経過をお示ししたいと思う。

ご略歴

2002年 千葉大学医学部医学科 卒業
2004年 東京大学医学部附属病院 眼科 医員
2011年 東京都健康長寿医療センター 眼科 医員
2016年 東京大学医学部附属病院 眼科 助教
2019年 同 特任講師
2022年 同 講師